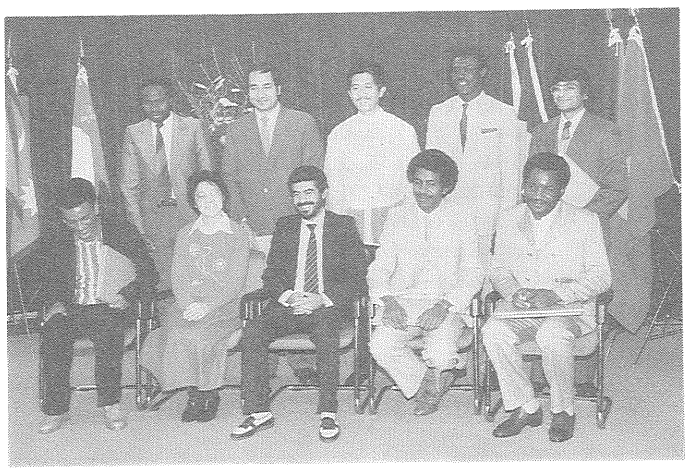
No. 31

集団研修地下水コース　ほぼ無事修了

第21回目を数えた集団研修地下水資源開発コースは去る12月8日（火）に昭和62年度の閉講式を行い　めでたく修了しました．　残暑厳しい8月中旬から初雪に見舞われた12月初旬までの約4か月間　皆様方のご支援を頂き　御陰様にて　研修員から高い評価を得まして　所期の目標を達成できたものと　研修担当者一同喜んでおります．　ここに関係各位に厚くお礼申し上げます．

さて　研修員とともに過した4か月の間は　思い出深い楽しいことばかり（?）でした．　閉講式の日　国際協力事業団総裁及び地質調査所長の二つの修了証書を受取った研修員から　送別パーティーの席で感謝の言葉をかけられた時には　まさしく感無量の気持ちです．　これで各研修員が　フライトスケジュールどおり何事もなく母国に帰還してくれれば　ほっと肩の力が抜けるわけです．

しかし今年の場合は　思いもかけぬことが成田空港で待っていました．　旅行業者の人の伝えるところによれば　それは研修員の一人が100kgに近い手荷物を持っていたことでした．　あいにくその研修員はオーバーチャージを支払うだけの日本円を持ち合わせていません．



結局　荷物を載せろ載せない　つくばへ帰る帰らない　明日また来る来ない　の論争の後　バッグの一つを空港に残してしまうということで飛行機に搭乗しました．

たとえ研修期間中にアンラッキーなことがあったとしても　ことわざには「終わり良ければ全て良し」といいます．　まさか修了証書の入った手荷物を置いていってしまったとは思いませんが　ことわざどおりにはいかない誠に気の毒な旅立ちでした．　このような時　日本人がお金を立て替えてしまうのは賢明な解決方法ではありません．　コースはこれからも毎年続くからです．

10名の研修員を迎えた今年度の研修の経過につきましては別途報告されますので　以下　彼等が日本での生活で直面した問題点あるいは印象を拾って書きとめることにします．

1）　日本語を自由に話せないこと．　ショッピングでレストランで相当困ったようです．　そして「なにかりもちょっと出かけたところで　“普通の”人達と会話ができず　寂しい想いをした」と　ある研修員は洩らしていました．

2）　つくばは陸の孤島．　研修や勉強にはつくばはとても良い環境だが　交通は不便で　生活の変化に乏しい．　近くにもっと人の集まる賑やかなところがあれば……．　短い滞在期間ですが研修員も「つくば病」にはかかるようです．

3）　日本での食費とタクシー代は高すぎる．　我々日本人も感じていることですから　もっともな感想でしょう．　ただし電化製品はとても優秀で　関税を含めても自国で買うよりは安く手に入る　お金があれば自動車もトラクターも買って帰りたいとは複数の研修員からのコメントでした．

4）　物事が正確に動きすぎる．　ＪＲ各線も首都圏の地下鉄も時刻表どおりに走りきれいでかつ乗り心地よし．　また日本人は几帳面に　そして忙しく働く．　でも何かが犠牲になってはいませんか．　うーん

思い当る節がありますねえ．　確かに一般に日本人には余裕がありません．

彼等はほかにも沢山のことを私達に話し　書き残していってくれました．　その中には全く的はずれのこともあります．　文化・伝統・習慣・生活のリズムが基本的に異なるのですから　当然といえば当然でしょう．　でも彼等の意見の多くは　確実に来年度以降の研修の改善のために役立てられます．

今年度の各研修員とは　someplace で　sometime に再会したいと思います．　その可能性がたとえ1％未満でも　それまでずっとコミュニケーションを保つことが重要でしょう．　折しも来年度は　地下水コースでは帰国研修員のうち20名を再招へいするセミナーコースを企画しております．　かつての研修員との再会の絶好のチャンスになりそうです．

研修事業は　もちろん研修担当者だけの力でできるものではありません．　所内外の各位の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げる次第です．（石井）

個別研修員の自己紹介

（本文はネパール国個別研修員　Dr. Ram Bahadur Sah から寄稿された英文を訳したものです．なお　ラムさんは昨年8月3日に来日し　今年2月29日まで地質調査所に　6月3日まで筑波大学にそれぞれ研修のため滞在します）

私はネパールのトリブバン大学地質学部の講師で地質学者です．　私の学部には僅か7名のスタッフしかいません．　この少人数のため学生に対する主に応用地質学分野の教育と研究指導が手薄になっています．　私が応用地質学特に水文地質学の研修を受けるために日本へ来たのは　将来この方面の強化を図る必要があるからです．

昨年8月に来日して　初めは地下水資源開発集団研修コースに参加しました．　このコースは4か月余りの短いものですが　非常に適切にまた合理的に運営されていました．　コースを通じて　私は地下水探査についての基礎的でかつ実用的な知識を習得することができました．　ただし　私は大学で私自身が教えるという立場にありますので　地下水探査ばかりではなく地下水管理についても　もっと深く知りたいと念願しています．　地質調査所での研修ののち　私は筑波大学の榧根教授の指導で　より突っ込んだ地下水管理学を勉強したいと思っています．

現在　私は地質調査所の黒田博士の指導を受け　水文地質学と土木地質学を勉強しています．　そして今年に入ってから既に　国立防災科学技術センターと林業試験

場を訪問し　地滑り・土壌保全・岩屑流などについて大変よく教えていただきました．　また農業土木試験場では放射能探査の研究と適用事例　土木研究所では斜面崩壊の要因と対策などについて　有益な知識を得ることができました．

このような試験研究所への訪問とかつてネパールで仕事をされた地球科学者の皆さん（平山博士　名取博士　丸山博士ら）との交流で　私は実に沢山の文献と資料を収集できました．　これらを基にして私は今　カトマンズ盆地の水文地質図の作成作業を進めています．　黒田博士との議論はここでも有益なものになっています．　更に予定されている岡山・高知県下への研修旅行が研修の効果を高めるであろうことは疑いありません．

日本で生活し　様々な都市（水戸　山形　盛岡　富士　長崎　大阪　奈良　京都ほか）を訪問し　私は多くの日本人と接することができました．　そして私には私なりの日本感・日本人感が生まれました．　それは日本はユニークな国であり　日本人は仕事好きで責任感が強く　親切だということです．　私は多くの官公庁や企業を訪問し　日本式旅館に滞在し　また日本食を味わう機会にも恵まれました．　日本人の働きぶりと生活の様式は大変印象に残っています．

このようなまたとない機会を与えられたことに対して私は　日本の皆さん　日本政府　国際協力事業団　地質調査所に深く感謝申し上げます．（1月18日記す）

地質ニュース	第402号	2月号
	定価 ¥ 630	〒実費
昭和63年2月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	

©1988 Geological Survey of Japan